

事業活動における環境保全の取り組み

省資源と廃棄物削減

ムラタの事業活動にともなう廃棄物に起因する環境負荷をできる限りゼロに近づけるため、生産工程などを見直し、廃棄物の排出を抑え、再利用・再資源化を推進することにより、循環型社会の構築を目指します。

焼却炉の全廃

焼却炉のある国内の事業所・子会社18社において1998年に焼却炉を全廃しました。

ほとんどの焼却炉が法規制対象外の小規模なものですが、ダイオキシン類の発生を防止する目的で自主的に全廃したものです。これにともない焼却対象物としていた紙類を製紙メ-カ-の協力を得て、リサイクルを推進しました。

セラミック付きフィルムのリサイクル

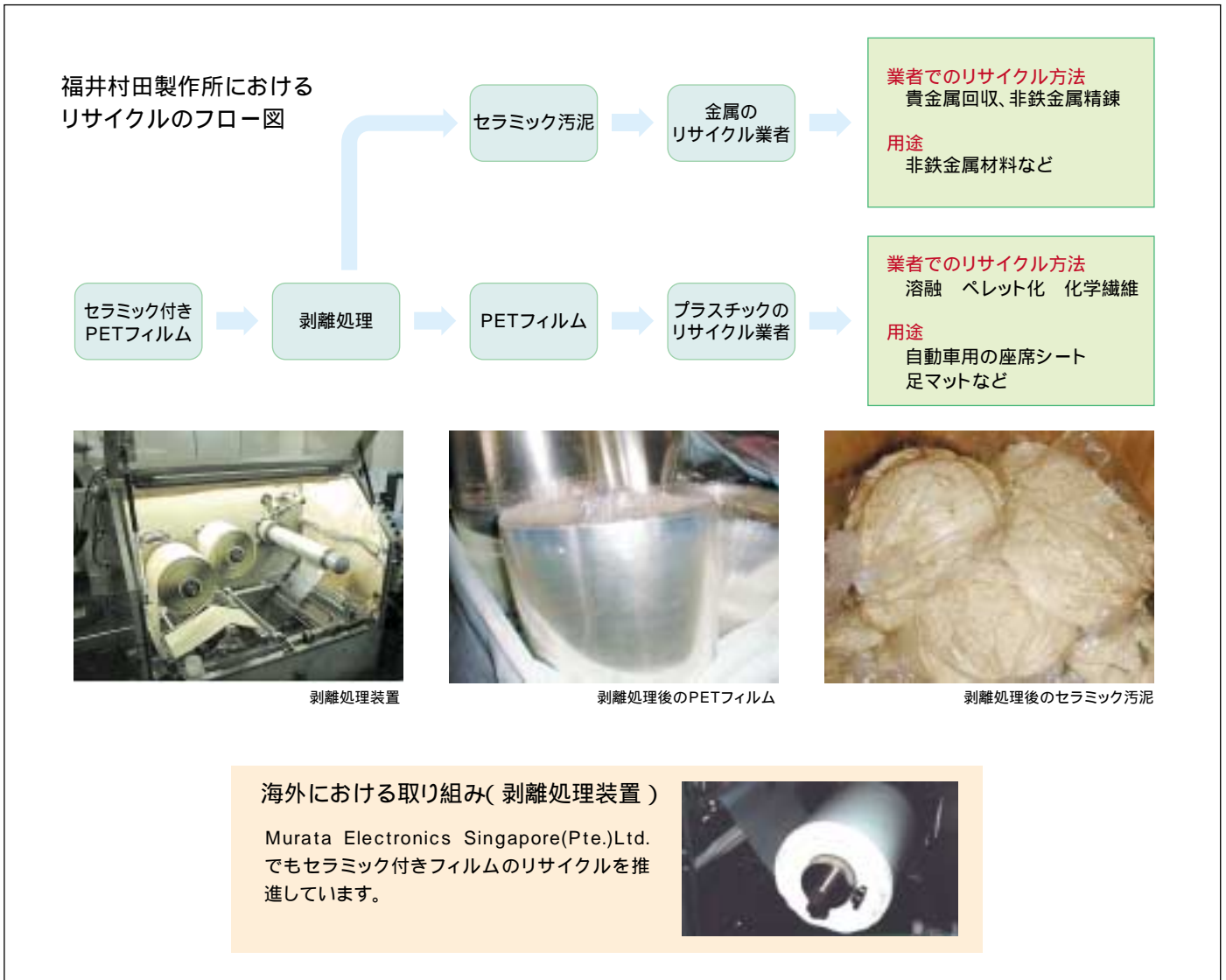
従来、セラミック汚泥付きPETフィルムは埋め立て処分をしていましたが、主に貴金属などを含有するものを対象として、1997年から福井村田製作所において自社で剥離処理し、汚泥とプラスチックに分離後、リサイクルを推進しました。海外でも2000年からシンガポールにおいて、同様のリサイクルを推進しています。

廃液濃縮装置の導入

1999年に野洲事業所において、コジェネレーションシステムの廃熱を利用した廃液濃縮装置を導入しました。これにより廃液を濃縮し、外部への排出量を約85%(23,600m³)削減しました。

2001年には、福井村田製作所及び出雲村田製作所においても廃液の濃縮装置を導入し、廃液の排出量をそれぞれ導入前の約20分の1に削減することができました。また、富山村田製作所では汚泥乾燥機を導入し、排出量を導入前の約2分の1にしました。

セラミック付きフィルムのリサイクル



食堂生ゴミ排出をゼロへ

国内の厨房付き従業員食堂のある事業所に、生ゴミをコンポスト(堆肥)化する設備を1996年から順次導入し、2001年1月に18事業所・子会社すべての導入を完了しました(投資総額6,900万円)。

生ゴミの発生量は年間で約200t(国内)ありましたが、これを年間20~40tまで減容化しコンポストとすることで外部への排出をなくしました。コンポストは構内の緑化などに役立っています。

生ごみのコンポスト化



ゼロエミッションを目指して

2001年度の国内の廃棄物の月平均総排出量*1は2,193tです。これは、2000年度売上高原単位比で7%削減となりました。

2001年度の国内のリサイクル率は53.3%となり、2000年度(38.3%)に比べ15ポイント改善しました。主な活動実績は、廃油(廃有機溶剤)の蒸留再生や廃プラスチックの固形燃料化などのリサイクルの推進があります。今後は、2003年度末までに、埋め立てする廃棄物ゼロ*2による完全リサイクルを目指します。

*1 総排出量

工場から排出されるすべての廃棄物(利材を含む)の排出量を示します。この量を削減(リデュース)していく計画としています。

*2 埋め立てする廃棄物ゼロ

直接埋め立てする廃棄物をゼロにするだけでなく中間処理(焼却、中和など)後の残さ・汚泥なども含めて埋め立てする廃棄物をゼロにすることをいいます。

廃棄物総排出量と売上高原単位00年度比の推移(国内合計)

